

真庭市の人口

2017年12月1日 現在

46,520人

住民基本台帳人口

-14,033人
(30.2%減)

2040年人口予想
32,487人

国立社会保障・人口問題研究所推計値

真庭市総合計画推進本部会議

真庭市の総力を結集して取り組む方針を決定

人口減少対策

11月27日、市役所本庁舎で、平成27年1月に策定した第2次総合計画で掲げた「2040年に人口3万4000人を維持」の目標に向け、「人口減少」をテーマとした真庭市総合計画推進本部会議を開催しました。

会には本部長の太田市長をはじめ、部局長からなる本部員22人が出席。人口減少の抑制として「出生数の増加、健康長寿の促進、転出抑制、転入の促進」を進めることや、人口減少社会への対応として「暮らしやすいまちづくり、地域での支え合い」を市民や市議会、企業などの連携、さらには「関係人口」(※左ページ参照)の協力も得ながら進めるといった内容の基本方針を決定しました。

また、そのための具体的な施策として、「地域集落の維持」、「女性目線による魅力あるまちづくり」、「教育(郷育)

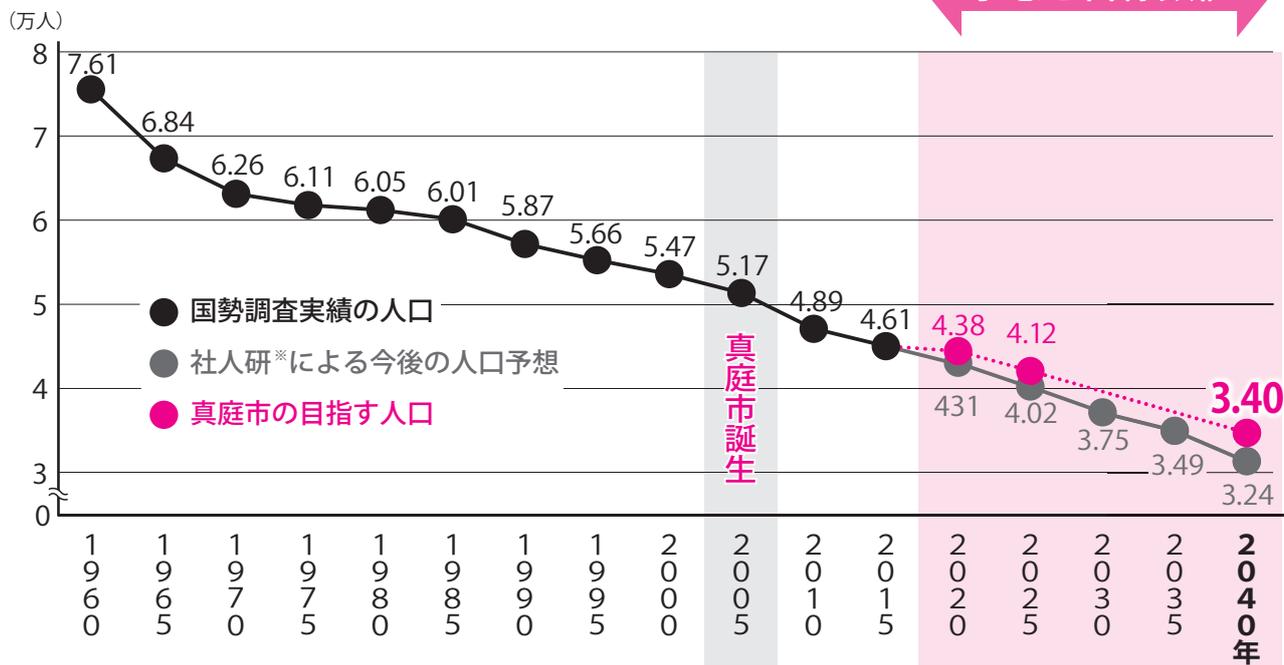
による帰属意識の醸成としごと場の創出、「人口減少に対応した計画的かつ持続可能な都市づくり」、「地域を支える関係人口づくりと情報発信」といった事業について各担当者が説明し、検討を行いました。



人口減少対策に向け、意見を出し合う部局長たち

真庭市の人口の推移と目標数値

予想と目標数値



※社人研…国立社会保障・人口問題研究所

【参考】真庭市人口ビジョン

「関係人口」 人口減少社会のこれからのキーワード

「関係人口」は、観光以上、定住未満の関わり方で、地域に多様に関わる人々を指します。例えば、その地域に現在住んでいないものの出身者や過去に勤務・居住経験がある人、地域に何らかのルートがある人、休日にイベントやボランティアに参加する人など、さまざまな形で地域と関わりがある人たちのことを言います。

今はまだ、移住・定住までは考えられないけれど、その地域に「関わりたい」「つながっていたい」「応援したい」、そんな思いを持った人たちの力を少しずつ借りることができれば、地域にとって新たな刺激となり、地域の活性化や維持にもつながります。

真庭市では、中和地域で昨年度から開催している「真庭なりわい塾」や湯原地域で県内の大学生に神輿の担ぎ手として参加いただいた「社内社」の秋の大祭の御神輿巡行」など、各地域において「関係人口」の参画を進めています。

今後も継続的に活動いただくための環境をさらに整備するとともに、真庭市の魅力や地域活動を全国に発信していきます。そして、継続して地域に貢献してくださる人たちを発掘し、地域で活躍していただきながら、移住・定住にもつながるよう地域の皆さんと協力して取り組んでいきます。

知っていますか？ これが、今の真庭市の状況です

家族	転入	転出	婚姻	離婚	出生	死亡
1世帯あたり	1日あたり	1日あたり	1日あたり	1日あたり	1日あたり	1日あたり
2.63 人	2.39 人	2.88 人	0.43 組	0.16 組	0.83 人	2.02 人

※転入・転出・婚姻・離婚・出生・死亡…平成28年度において市民課・各振興局・出張所への届け出があった数や住民基本台帳を基に計算した平均値。
※家族…平成29年4月1日現在の住民基本台帳の人口・世帯数を基に計算した平均値。

市政トピックス TOPICS

11月30日、北房文化センターで新しい木質建材CLTの需要拡大に向け、その特徴や実際の活用事例などを紹介する「CLT建築セミナー」が開かれました。セミナーには、全国から建築関係者ら約180名が参加。日本CLT協会の理事などから、海外での高層建築物の施工例や設計方法などについての説明があり、参加者はメモを取りながら話しに聞き入っていました。また、終了後には建設中の北房小学校・こども園を見学し、構造などを確認していました。



CLT建築セミナー+現場見学会 全国の建築関係者が活用事例などを学ぶ



写真上：市の担当者から北房こども園の工事概要について説明を受ける参加者
写真左下：日本CLT協会の理事が、CLT建築の最近の動向を説明
写真右下：北房こども園の構造などを確認する参加者

**真庭地域農業研究会
鳥獣被害軽減に向けて**

11月29日、高仙の里よの「なつつばき」で、農作物の鳥獣被害軽減対策について考える真庭地域農業研究会が開かれました。参加者は講師から「被害軽減のためには、柵と捕獲を両輪とした取り組みや、猟友会と地域との連携が不可欠」といったことについての話を聞き、被害対策への理解を深めていました。また、その後はグループに分かれ、被害状況や足跡、糞などから動物を特定するワークショップも開かれました。



市内の農林業関係者に加え、真庭高校の生徒も参加しました



東京国際フォーラムで行われた式典

**地方自治法施行70周年記念式典
真庭市が総務大臣表彰**

11月20日、東京都で地方自治法施行70周年記念式典が開かれ、太田市長が出席しました。真庭市は循環型社会「バイオマス産業杜市」を目指し、長年にわたり多くの人たちがまちづくりに尽力してきました。特にバイオマス発電所による再生可能エネルギーの普及促進や、木材産業の裾野拡大に貢献しているCLTの活用など、地域の資源に着目した取り組みが続いていることなどが高く評価され、総務大臣表彰を受賞しました。



市政に関する動きの一部を紹介します

12/10 認知症セミナー inまにわ

認知症セミナーinまにわが、勝山文化センターで開かれました。参加者は、認知症キャラバン・メイトによる寸劇や、小学生サポーターの感想文発表などを通して、認知症への理解をより一層深めていました。



12/18 市議会が市長に初の政策提言

真庭市議会が太田市長に「障がい者の一般企業への就労に向けた支援事業や地元企業と連携を強化する体制づくり」についての政策提言を行いました。市議会では、今後も市民意見を政策に反映させる取り組みを続けていきたいとのことです。



市長室から こんにちは!

温かい家族で楽しいお正月を!

「幸せをありがとう、ぬくもりが届きました」と、さだまさしの名曲「バースデー」で始まるNHKのTV番組「鶴瓶の家族に乾杯」には多くのファンがいます。私も大ファンのひとりです。昨年12月11日に20周年記念番組が放映されましたが、鶴瓶さんの涙ぐむ過去の名場面に、私も思わずもらい泣きをしてしまいました。

この番組には素朴で人情溢れる鶴瓶さんのお人柄が表れるとともに、偶然に出会う市井の人々の善意や温かさもよく感じられます。兎に角、理屈抜きで人間って素晴らしいなと痛感します。特に、一つの家族内での会話やしぐさ、家族と家族の交流など「家族」が放映されるので、余計温かさを覚えるのでしょうか。「家族」は、人類が生み出した素晴らしい存在ですね。

この正月、一家団欒の機会が多くなることでしょう。どうか、ご家族で心の触れ合いを味わいながら、大切な時間を楽しくお過ごしください。願わくば、今の真庭、これからの真庭のことも話題にしていたいただければありがたいと思います。皆様、よい正月をお過ごしください。



1人1人が課題解決に向け主体的に考えます

12月14日、久世公民館でESD研修会が開かれ、市職員や市民など約40人が参加しました。ESDとは環境や貧困、人権など世界中にあるさまざまな課題を自分の問題として捉え、解決に向けた新しい価値観や行動を生み出し、持続可能な社会づくりの担い手を育もうという教育です。参加者たちは自分たちの意識や価値観の変化で世界の経済や環境、社会のバランスが変化するということをワークショップを通して学びました。

ESD研修会 新たな価値観や行動を生み出す



ボランティアガイドの説明を聞く参加者

インターネット百科事典ウィキペディアに「勝山町並み保存地区」の記事を掲載して世界に発信する「ウィキペディアタウンin勝山」が、12月17日に勝山文化センターで開かれました。参加者は、ボランティアガイドの案内で町歩きをした後、市内の図書館に所蔵されている文献などを活用しながら勝山町並み保存地区の歴史や観光スポット、店舗といった情報を整理。そして記事を作成してウィキペディアに投稿しました。

ウィキペディアタウンin勝山 見て聞いて調べて発信